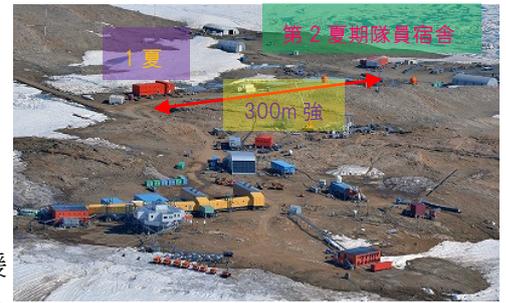


### ◆ 夏宿事情—第2夏期隊員宿舎—

「2(ニツ)」。私たちはこう呼びます。1夏と同様に「\*\*\*ホテル」と記した、こちらはちょっと控えめな（さすがに気が引けたのか？）看板が掲げられています。しかし、それでも隊員がその呼称を口にするのを聞いたことがありません。意地で呼ばないというよりも、そんなこと考えるに値しない、といった所でしょうか。定員は、40名（2人×20部屋）。2人部屋なら1夏よりいいじゃないか、と思うなかれ。暖房は効いてますが（いくらなんでも南極ですから）、水回りがありません。すなわち、トイレ、風呂、洗面所などが無いわけです。で、最大の問題。生理現象が起きたらどうするの？④は、外にあるポリ容器（愛着を込めて「ショポリ」と呼んでいます）へ。④の時は、約300m離れた1夏へ駆け込みます。



1夏まで徒歩5分。何回往復したことが。

しかし、2夏にもひとつだけいいところが・・・それは、「サロン」が1夏より広いところ。しかも、寝室から隔離されているので、気兼ねなく談笑したり、仕事ができます。途中、田村隊員がビデオデッキを持ち込み、毎夜、30～40年前の懐かしきビデオ上映で話に華が咲きました。私は、基地に入った当初は1夏住まいでしたが、1月中旬より2夏へ引っ越しました（自衛隊の方が入居するため）。はじめは、不便だな・・・、と思っていたのですが、サロンの居心地の良さにあっという間に馴染んでしまったのでした。生活環境よりも、やはり人との繋がりが大切ということなのではないでしょうか。



当直が処理します。



2夏。「\*\*\*ホテル」とは？

ホテルより旅館、旅館より2夏！？では、ここで一句「疲れしも2夏サロンの笑い声」



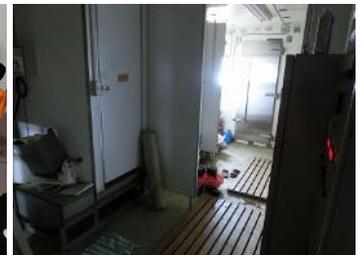
二段ベッド。私は上段。



田村隊員を囲んで



そして昇天？小林、岩月隊員。



2月6日。基地を去る直前。

### ◆ JARE57 隊員紹介

田村 芳隆 (48) 越冬隊 多目的アンテナ担当 千葉県出身  
NEC ネットエスアイ株式会社 第42次越冬隊

職場では、人工衛星地上システムのメンテナンス等をおこなっている。ロケット打ち上げ時には、父島にあるJAXA小笠原追跡所へも赴く。25歳の時、同期入社と同僚が第34次越冬隊に行ったということを社内報で知り、驚くと同時に心に火が付いた。そして、8年後の社内公募に応じ第42次越冬隊として参加し、夢が叶った。直径11mのパラボラアンテナを利用した衛星受信運用、VLBI観測ならびにアンテナと受信設備の保守、管理業務に携わるとともに安全主任として事故防止に努める。2回目の越冬となる今回は、一歩引いて冷静に隊員の人間観察を行いたいと考えている（越冬隊の皆さま、ご注意を）。皆さんへは「行動を起こせば、夢は叶うものです」の言葉を頂きました。隊のムードメーカーで、自作の「国民の歌」を謡えば拍手喝采です。南極授業でも披露してくれるかも！？

誰よりも、2夏を愛した隊員でした。



仮面ライダー田村。右のショッカは私。